

ケベックシティへの留学

Laval University

島内 司

(九州大学麻酔科蘇生科)

2019年1月よりカナダ、ケベックシティ ラヴァル大学へポスドクとして留学中です。元々九州大学麻酔科に所属しドキシソルピシン心筋症に関する研究で学位を所得し、ラヴァル大学の肺高血圧研究所にて右心不全におけるDNA損傷と糖代謝について研究を行っています。

当初は6人家族(妻と子供4人)でのんびりした留学生活でしたが、COVID-19パンデミックにより2020-2021年はロックダウンや在宅勤務を経験し、家族や己の内面としっかりと向き合うことが出来ました。現在はワクチン接種が普及し、また大勢の人が罹患したことから、殆ど以前の生活に戻っています。

ケベックシティはカナダ東部にある、フレンチ・カナダの歴史と伝統を感じさせるケベック州の州都です。フランスの植民地として発展し、現在も住民の90%以上がフランス系です。そのため公用語はフランス語で、ラボにはフランス人留学生が多く在籍しています(カナダ人より多い)。日常会話はフランス語、研究のディスカッションは英語といった感じです。

研究の方ですが、ラヴァル大学肺高血圧研究所のDr. Bonnetの研究室に所属しています。Dr. Bonnetはケベック州内の主要医療施設で構成される生体試料バンクを運用し、肺高血圧症患者のサンプルを多く管理しています。日本との違いとしてテクニシャンが多く在籍し、それぞれの得意分野で分業していくことが多くチームとして研究テーマに取り組む方法は非常に勉強になります。私の妻もラボテクニシャンとして働いており、組織切片作成・組織染色を全面的に担当しています。私は日本での経験から心筋細胞単離・動物の心血管手術、動物の心エコー等を担当しラボに貢献しています。幸い学会で多くの賞を受賞し(American Thoracic Society 2020 Best Abstract Award, American Heart Association 2021 3CPR Early Career Investigator Award等)、論文も書けましたのでそれなりに留学した成果はあったかと思えます。

こちらで留学生活を経験することで研究についてだけでなく、国や民族の違い、言語・家族の大切さなど様々なことを考え見つめ直す機会となっています。この度はこのような機会を頂きサポートして頂いたことを、上原記念生命科学財団及び関係者の方々に心より御礼申し上げます。留学先で学んだことを活かし、今後の日本社会へ貢献出来るよう精進致します。



ケベックで有名なモンモランシーの滝。夏も美しいですが、冬は凍りついて絶景です。

ケベックシティでの研究生活

Institut Universitaire de Cardiologie
et de Pneumologie de Quebec-Universite Laval

横川 哲朗

(福島県立医科大学循環器内科)

カナダのケベックシティに来てそろそろ1年になります。昨年の冬に初めて来た際には、大雪や吹雪で大変寒いことに加え、ケベック州の公用語であるフランス語は全く理解できず、現実問題として色々大変でした。さらにコロナウィルスの影響で、一時的にラボが閉鎖されたり、夜間外出制限があったりしまして、順応に時間を要しました。しかし、踏ん張っていればなるようになるもので、フランス語は相変わらず、わからないものの、半年もすると、日常生活や研究室のメンバーとの英語でのコミュニケーションについては大きな問題はなくなりました。我慢していればなんとかなるといえるのは本当でした。コロナウィルスについては、一旦沈静化したと思ったら、オミクロン株の出現とともに、2021年末から再度、夜間外出禁止などの規制が再度出現し、なかなか落ち着かず、まだまだ振り回されています。

肺高血圧症のみに特化した基礎の研究室は日本ではほとんどないと思います。そこで、この留学しているカナダのラボは、肺高血圧症を中心に研究している世界でも数少ない研究室の一つです。研究室のメンバーは、フランス語圏であるため、フランス、カナダ（ケベック）、レバノン、チュニジアとフランス語圏の出身者が多く、他に中国、日本、アメリカの出身者で構成されている国際色豊かなラボです。これまで、フランス語圏の方々と接したことがなかったので、フランス語が飛び交う中で仕事を進めるのも斬新な経験です。

私は肺高血圧症に伴った右心不全の非代償化にフォーカスして基礎研究、そして臨床部門のデータを利用して臨床研究も進めています。当初は実験器具の違いにより、結果が出ないことばかりでしたが、数ヶ月すると、少しずつ実験も進むようになりました。また、私は循環器内科医師であるため、研究室の動物の心エコー検査の担当となり、他の研究室のメンバーの実験系において、肺高血圧症モデル動物の、右心系にフォーカスした心エコー検査も担当しています。そして、毎週のように肺高血圧症モデル動物の心エコー図検査をしています。自分の実験系のみならず、複数のメンバーの実験系、また他の施設とのコラボレーションの実験系に心エコー図検査を通じて関わることができ、肺高血圧症モデル動物の実験系に関してとても勉強になっています。

このような貴重な留学生活を送れるのは、上原記念生命科学財団の海外留学助成のサポートのおかげです。ありがとうございました。



ケベックシティのシンボル、「シャトー・フロンテナック」です。